

「日頃から心がけていることや苦勞したこと等」

厚真町立厚真中央小学校

教諭：坂本和利

これまでの教員生活の中で、教務の仕事がほとんどを占めてきました。教務主任としては、トータル8年間ほど行わせていただいています。教務の仕事（特に教務主任）をしていると、学校全体を見ることができ、学校教育目標達成のために、どのように教育活動を進めていくか日々考えながら業務を行うことができます。そこで、常々思い、感じていることは、当たり前ですが教育は、「教室」で行われているということです。もちろん、教室以外でも指導は行いますが、基本は教室であり、授業だと思っています。授業が楽しい、授業が面白い、授業が分かる、もっと知りたい…等々の思いを子どもたち一人一人もつことがどの学校においても教育活動を進めていくうえで一番重要だと思います。授業改善こそが、学校改善に繋がると実感しています。

そこで、私に何ができるか…少しでも良いので、担任の先生方の役に立つことはできないか…今は、担任の先生方の役に立つ仕事をするのが、結果的には子どもたちの健やかな学びに繋がると思い業務を行っています。

例えば、担任の先生方が日々行っている教材研究では…教具の整備、教材の紹介、ICTの活用方法の紹介・相談、等々の手助けをすることで、授業がやりやすくなるのでは。

成績処理では…校務支援システムを活用し、より簡単に成績処理できるシステムを構築すれば、先生たちにゆとりができるのでは。

本校の研究である道徳科では…研修会に参加した時の様子や推進教師の先生方を話し合った時の内容等を簡潔にポイントを絞って先生方に還元すれば、道徳科の指導力向上につながるのでは。

学力向上では…本校の学力向上プランを基とした具体的な取組を提示し、全職員共通認識のもと実践する。また、チャレンジテストや全国学力・学習状況調査では、問題別や経年変化等を取り入れた詳細な分析を行い担任に返すだけでなく、全体で確認することで、学校全体としての取組を工夫・改善していく手助けになるのでは。

といった思いで、一例ですが、上記のようなことに取り組んでいます。

大変なことも多々ありますが、なんと言っても児童の学力が上がり、「授業が分かった」「学校が楽しい」「もっと勉強した」といった声を耳にすると、取組に対する達成感を感じます。

しかし、私一人の力は、大変微力です。これまでの各取組の原動力は、子どもたちの頑張りが一番ですが、先生方の協力体制がとても大きいです。本校では、全職員が組織として機能することを常に考えて実践してくれています。一人一人の教員が、同じ方向を向き、力を合わせて取り組んでいます。その力は、絶大です。私の取組を支えてくれているのは、周りの先生方であり、常に感謝の気持ちでいっぱいです。それゆえに、私の力でよければ、先生方のため、保護者・地域（町）のため、そして、子どもたちのために、労を惜しまずどんどんお貸しします、という心構えで日々業務にあたっているところです。

道徳教育推進教師としては、前任校でも推進教師を3年間行い、本校においても3年間務めました。北海道道徳教育推進会議委員として北海道道徳教材「きたものがたり」の作成、胆振管内道徳教育推進委員会では「道徳教育推進教師ハンドブック」の作成に参加させていただきました。両委員会において、各校の推進教師の先生方と話し合いながら作業を進めることで、とても勉強になり、私のスキルアップとなりました。また、自分自身だけでなく、本校の研究に関しても推進教師の皆さんの話や各校の取組を参考にすることで、本校の研究内容をより深めるさせることができました。私の現在の課題は、道徳科と他教科との関連を意識した授業づくりです。昨年度、道徳教育推進校事業の一環として、別葉を活用した授業を参観する機会を得ることができました。参観した学校の取組を本校でも即取り入れ、担任の先生方に道徳科の別葉を意識できるような工夫を行いました。推進教師だけではなく、日頃から先生方が別葉を見る機会を増やし、他教科との関連をなんとなく意識できるようになってきました。更に他教科との関連を図った実践を行うには、どのような施策が適当であるかを模索しているところです。